

デジタルに負けるな

塚田 實

お正月のおせち料理も三日続くと、さすがに飽きてくる。一月四日の昼前、家内に聞いた。「今日のお昼はマックにしようか。ビッグマックのセットはどう」。「良いわね」と家内も賛同してくれたので、自転車でマクドナルド駒沢大学店に出かけた。

店は掘り込み式の地下一階にある。待ち行列にはすでに十人ほどが並んでいた。これなら十五分くらいで注文できるだろうと思っていたが、行列は一向に進まない。レジの女性は、次々と注文を取るでもなく、飲み物の準備作業などを行っている。よく見ると外から入ってきた客がやってきては、品物を受け取っている。外のテラスで食べていた高校生のグループは、食べ足りないのか、スマホを叩いては、またカウンターで品物をピックアップしている。行列は一階に続く外階段の上まで伸び、遂に三十組ほどになった。後ろに並んでいた子供連れの夫婦がささやいていた。「あれモバイルオーダーなのよね」。モバイルオーダーって何だ、私は仕組みが全く分からなかった。

結局四十分ほど並んで、やっと注文できた。レジの女性に「外にこんなに並んでいるので、なぜ注文を次々取らないの」と一言文句を言いたかったけれども、大人気ないと思いをぐっと飲み込み、黙って精算し品物を受け取り、急いで家に帰った。

娘にこの話をする、「モバイルオーダーできるアプリをスマホに入れておこうか」といとも簡単に言い、アプリをダウンロードしてくれた。「メニューを選んでおいて、店の近くに行ってから『店に着きました』のボタンを押すのよ。そこから作り始めるから」

後日実際に試してみたくて、朝マックを買いに行った。店に着くと私のオーダー番号が作業中になっており、マクドナルドからメールで領収書も届いた。数分で品物を受け取った。

モバイルオーダーの功罪はいろいろ議論があるだろう。しかし、一旦慣れると、これ程便利なものはない。これからデジタルの良いところは積極的に取り入れてみよう。